

夏まき年内どり栽培における「紀の輝」の施肥方法

暖地園芸センター

【研究のねらい】

実エンドウの新品種「紀の輝」は、早生で大英の省力的な品種であり、特に、夏まき年内どりの作型で現地への普及・定着が進んでいます。しかし、その肥培管理技術は開発されておらず、早期確立への要望が高まっています。そこで、「紀の輝」の窒素吸収特性を把握するとともに、本品種に適した施肥方法を検討します。

【研究の成果】

- ① 栽培期間の施肥量を一定にした場合、基肥を慣行より多くすると、生育初期の花落ちによる着莢率の低下が認められ、収量が減少します。一方、基肥を慣行より少なくし、追肥を多くすると、総収量は慣行と同等で、初期収量が増加します（表1、図1）。
- ② 「紀の輝」は、「きしゅうすい」と比べて、L莢率は高くなりますが、むき実率は低下します。なお、基肥を多くするとL莢率およびむき実率は低くなり、逆に追肥を多くするとむき実率は慣行と同等で、L莢率は若干向上します（図1）。
- ③ 「紀の輝」は慣行の施肥において、栽培終了時までに10aあたり20.0kgの窒素を吸収し、同時期の「きしゅうすい」の吸収量より多い傾向が認められます（データ省略）。

【成果の活用面・留意点】

- ① 連作地における施肥法として活用できます。
- ② 基肥が少ないと二次分枝の発生が減少し、生育後期の収量が低下する可能性があります。

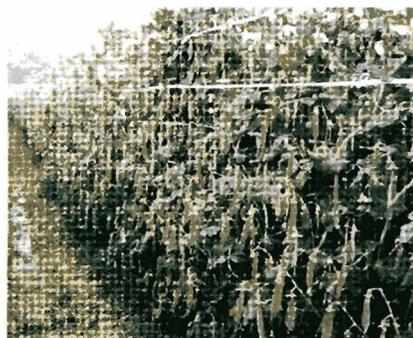


写真1 「紀の輝」の栽培状況

表1 施肥の処理区

処理区	基肥	追肥				合計
		I	II	III	IV	
追肥重点	5	3.75	3.75	3.75	3.75	20
慣行	10	2.5	2.5	2.5	2.5	20
基肥重点	15	1.25	1.25	1.25	1.25	20

数値はN成分(kg/10a).

2005年9月1日播種

基肥:FTE入り豆基肥(6-8-6), 追肥:千代田化成(15-14-9).

追肥は、品種それぞれの開花始めから2週間おきに4回施用.

開花始め:「紀の輝」:10月2日, 「きしゅうすい」:10月14日

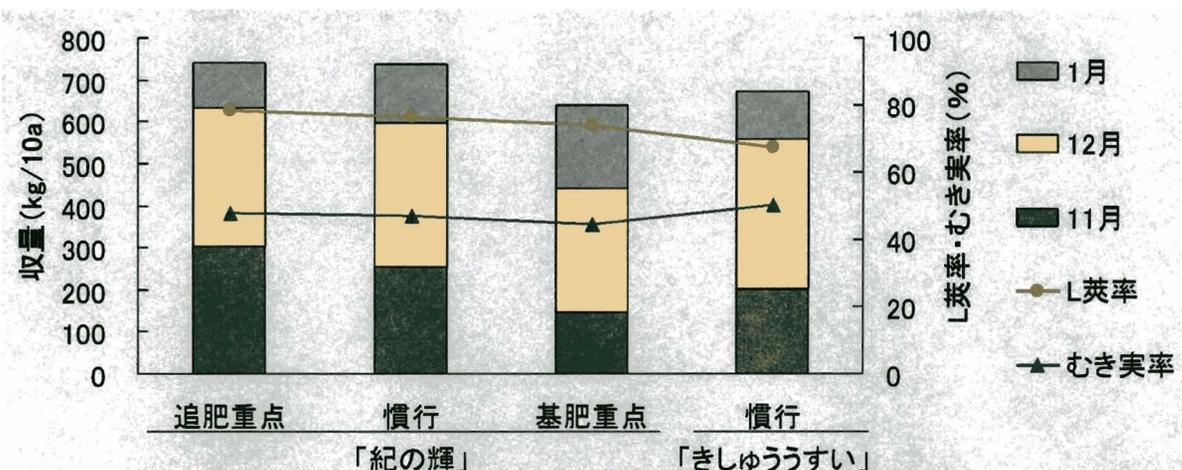


図1 「紀の輝」および「きしゅうすい」の施肥法と収量、品質

(問い合わせ先: 0738-23-4005)